

12 透析患者へのフットケア —ASO 早期発見スクリーニングパスを導入して—

諏訪赤十字病院 羽鳥 照美

【はじめに】

腎不全領域では閉塞性動脈硬化症（ASO）のリスクが高く、フットケアの必要性が高まっている。当院では患者や家族からの訴えによって足の観察をし、医師への報告後に治療が開始している状況であった。

そこで、患者や看護師のフットケアに対する思いやニーズを知り、対処方法について検討した。ASO早期発見スクリーニングパスを導入、効果を考察したので報告する。

【方法】

- 1) フットケア教育用ポスターの展示。 (※1)



- 2) 通院の透析患者全員に展示の感想とフットチェックを定期的に行ってほしいかアンケートを実施した。(※2)
- 3) 透析の看護師全員に2回の勉強会をした。その後、フットケアに対する意識について、アンケートを実施した。(※3)
- 4) 既存するASO早期発見スクリーニングパスを、使用しやすいように変更しフットチェック表を作成、導入した。(※4)
- 5) 平成21年11月よりASO早期発見スクリーニングパスを使用しフットチェックを開始した。(実施期間：平成21年11月～平成23年9月)

投稿者氏名：羽鳥 照美 諏訪赤十字病院血液浄化センター
〒 392-0027 諏訪市湖岸通り5-11-50

- 6) ASO早期発見スクリーニングパスを使用し、その効果を振り返った。

【倫理的配慮】

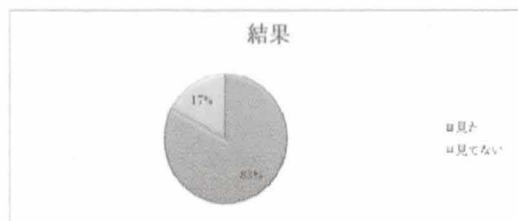
全ての対象者にプライバシーの保護のため、個人が特定されないよう配慮することを口頭で伝え同意を得た。また、諏訪赤十字病院看護部教育委員会の承認を得た。

【結果】 1) アンケート結果

- (※2) 外来通院患者さんを対象

1、展示について

見ましたか	見た	77/93名
	見ていない	16/93名



● 見えない理由

- ・ 展示に気づけなかった。
- ・ 何か貼ってあるのには気づいていたが、時間的に余裕がなく見れなかった。

2、展示についての感想

- ① DMの人が主だと思って、こういう人もいるんだなと思った。あんまり心配していない。
- ② びっくりして気を付けようと思った。
- ③ 足がしびれたりしていたので、展示を見て心配になり医師に言って他科診をした。
- ④ 今のところ良いけれど透析歴が長くなると合併症とかで、展示のような症状が出てくると心配。
- ⑤ 症状があるので、展示を見て足浴したりしている。
- ⑥ まさに自分のことなので、メモって傷を付けないようにしたり、足を洗う時マッサージをしたりしている。

⑦閉塞性動脈硬化症（ASO）があるので、すごく気を付けている。

⑧今のところ症状がないので、そんなことがあるのかと思った。

⑨見たけど内容まで見ていない。真剣に見ていない。

⑩自分には関係ないでしょう・・・。

⑪切断になったら切ないから気を付けたい。

⑫看護師や医師に相談すれば対応してくれるので心配していない。

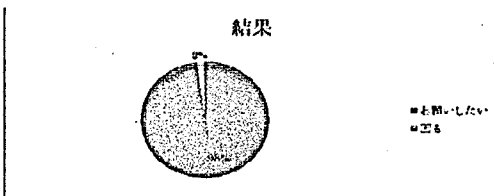
⑬展示してくれてありがたかった。今後も情報をお願いしたい。

（※2）外来通院患者さんを対象

3、足のチェックを定期的に行って良いか？

是非お願いしたい 91/93名

困る 2/93名



●困る理由

・手入れをしないと見せるのは嫌。自分から申告したい。

・水虫があるから治してから見せたい。

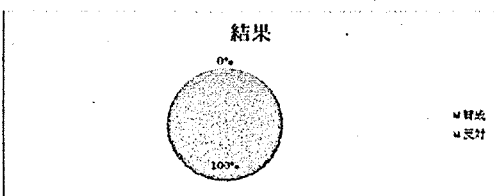
展示を7月下旬から8月中旬まで実施したが、アンケートを行った結果、気付いてない人もいたため、再度10月上旬より展示を実施した。

（※3）看護師を対象

1、フットケアをやる事に賛成か？

賛成 17/17名

反対 0/17名



2、フットケアをどこまでやるか

①足のチェックをする。（足のチェック表使用）

②足のチェック後に治療が必要か要観察か等振り分ける。

③①と②を継続的に行う。

④以上ができた段階で足浴・爪切りなど患者さん自身で出来るように指導を実施する。

3、フットケアを実施するうえでの看護師の思い

①足に関心を持ってもらうため、足のチェックをしていきたい。

②足のチェック表を用いて、チェックをして振り分ける。

③セルフ足浴できるよう指導する。患者さんが、自らやる必要があると認識して、出来るように指導する。（看護師側の自己満足にたくない）

④足浴・爪切りの指導は透析が終わった後、何名か集めて指導する。

⑤患者さん教育として、患者さんの待合室でフットケアのDVDを流す。

⑥簡単なフットケアのパンフレットを作る。

（※4）2）ASO早期発見スクリーニングパスのフットチェック表

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
足の色	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
足背動脈	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
後脛骨動脈	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
足の傷	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
爪の状態	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
胼胝	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
疣贅	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
その他	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

ASO早期発見スクリーニングパスを使用し、以下の10項目をチェックした。足の色、足背動脈、後脛骨動脈の触知、冷感、しびれ、間欠性跛行、足の傷、爪の状態、胼胝、疣贅です。足の観察は定期検査に合わせ1ヶ月に1度実施した。

その結果、フットチェック開始当時、異常のあった患者は63%であり、対応が必要であった患者9%、治療実施は4%、経過観察は4%であった。フットチェックを開始し約2年が経過した現在までに下肢切断の症例はなかった。

また、定期的に行うことで各患者の足の変化が

かめ特に異常発見時は続けて記録され医師、看護師や患者家族との情報交換に役立った。

継続的な記録となっているため足の変化に早く気づけ早期発見の材料となった。

コミュニケーションのきっかけにもなり、患者の生活がつかめ指導に繋がられた。

ABI、SPPの検査がきっかけとなり、循環器のDrと共同で症例検討されPTAなどの治療が積極的にされるようになった。

フットチェックにより治療に結びついた症例

症例1 ASOの症状を自覚していなかったが、定期のフットチェック時、足背動脈の触れが弱く、早期発見につながった症例

H23年7月まで動脈の触れは良かった。

フットチェック時、足背動脈の触れ弱い。症状「何となく足が痺れる感じ」だった。Dr報告し検査をした。

ABI結果、 右0,73 左0,69

下肢アンギオCT結果

右下肢 前脛骨動脈99%閉塞、腓骨動脈閉塞と後脛骨動脈は90%狭窄

左下肢 前脛骨動脈閉塞、腓骨動脈、後脛骨動脈亜閉塞

SPP結果 右65 左82

循環器診の結果8月右下肢、後日左下肢PTA施行狭窄が50%~0%となり大きな効果が見られた。

症例2 動脈の触れはもともと弱い検査結果は正常範囲だった患者の、訴えを見逃さずにチェックで発見された症例

フットチェック時両下肢の「指先の痺れが仰向けになると出る」と言うためDr報告し検査をした。

ABI結果 右0,7左 0,72

下肢アンギオCT結果

右下肢 閉塞状態で開くのは無理である

左下肢 75%の狭窄

循環器診の結果3月左下肢PTA施行し75%の狭窄から25%の狭窄へと改善した。右下肢PTAカテーテル入らず血管拡張剤の注射薬使用開始となる。

異常があったら看護師へ伝えられる患者と、その

まま様子を見る患者がいる現状が把握でき、足の観察は継続することで異常の早期発見に重要である事が再認識できた。

また、循環を良くするため炭酸入浴剤による足浴の勧めや、足の腫のひび割れに保湿剤を使用すること、ASOの患者の暖房器具使用に関しての注意点の指導が看護師から積極的に勧められた。

患者から看護師に「ちょっと足を見てくれる？」と声をかける姿や、患者同士で「足浴している」等情報交換をしている姿が見られた。

また、足の切断を防いでいこうという点では、患者のリン値やリン×カルシウムの積など検査データに基づいて栄養士と連携をより密にして、栄養指導に繋げる事が出来た。

また、動脈硬化を防ぐよう、血圧の変動がある患者や高脂血症のデータがでた患者に注目して、医師と相談して、すぐに対処できるようにしている。

【考察】

ポスターを用いて視覚に訴える展示をすることで患者への意識付けの導入ができた。

ASO早期発見スクリーニングパスを使用して可視化することで足の観察を実施し、看護師による観察視点のばらつきなくフットチェックが実施できた。

患者指導を強化し自己管理に繋げるように、看護師が関わりを持つことでより一層セルフケアの意欲（治療参加）につながる効果が得られた。また、治療に結びついた患者がいたことから、重症化を予防するためのスクリーニングの重要性和継続の必要性が再認識できた。

【終わりに】

今回パスを導入したことでASOの早期発見につながり効果が得られたため今後も継続して行っていきたい。

また、フットケアを充実させ、患者自身がフットケアに関し意欲を持って行い、さらに継続出来るよう関わっていきたい。